

シラバス

2024 年度

ファインアート科1年

学校法人高澤学園 美術造形専門学校

創形美術学校

ファインアート科/ビジュアルデザイン科/研究科

履修ガイド

1. シラバス・出講表

- (1)各授業のシラバス・出講表として授業内容の他、学習目的、予習、準備物、注意事項とともに評価方法および教員・講師の出講日も記載。授業の1週間前にはアトリエに出講表を掲示。また学校ホームページでも確認することができる。
- (2)シラバスには次の内容が記載されている。
「授業名」「担当教員」「授業期間」「学習目標」「授業内容」
- (3)出講表には次の内容が記載されている
「授業名」「担当教員」「受講アトリエ」「修得単位」「授業内容」「授業スケジュール/計画」「指導日」「学習目標」「予習・準備物」「注意事項」「評価方法」
- (4)指導日以外は授業が休みということではない。指導日以外の「自主制作日」も各自で制作を進めること。授業期間で制作を行うことで時間数に基づき単位がそれぞれ設定されている。スケジュールを確認し、作品提出日をしっかりと守ること。
- (5)シラバス、出講表、年間行事は学校ホームページで閲覧できる。
(創形ホームページ→学生生活→スクールガイド→シラバス・出講表)
※年間行事の変更があった場合には、その都度更新される。

2. 単位

単位認定

各授業科目について基準に従って履修し合格すると、その授業科目に割り当てられている単位が与えられる。授業毎の修得単位は「出講表」に記載される。単位取得には成績および出席も含め総合的に判断される。授業科目には「学科科目」と「実技科目」からなる。(P10「4.単位制度」参照)

- (1)「学科科目」「実技科目」とともに、各授業の基準に従い、合格と認定された学生には、所定の単位を与える。
- (2)各授業科目に対する単位は以下のような算定基準に基づき授業が開設される。
1 コマ(90分)の授業が前期、または後期に週1回を基準に開設されている授業に対し1単位を基準とする。2 コマ(180分)の集中授業が3~4週間を基準に開設されている授業に対し2単位を基準とする。
※1単位:約25.5時間=1コマ17週相当
- (3)各授業の修得単位数は「出講表」に記載されている。

進級の単位数

進級するには、1年間の修得単位が32単位以上なければならない。

卒業・修了の単位数

本課程を卒業するには3年以上在学し、かつ所定の96単位以上(編入生は2年以上在学し、合計64単位以上)修得しなければならない。研究科は1年以上在学し、かつ所定の32単位以上修得しなければならない。

3. 履修

- (1) 授業について単位を修得するためには2/3以上の出席が必要となる。止むを得ず授業を欠席する場合、必ず事前に学校へ連絡すること。
- (2) 原則、指導日の授業開始時に出欠確認を行う。遅刻・早退は記録し、3回をもって1回の欠席扱いとなる。
- (3) 交通機関の遅れに関しては必ず遅延証明書を授業担当教員へ提出すること。
- (4) 学生の履修は在籍する科の指示に従い、受講する科目は原則として全て履修する。
- (5) 学生は出席率85%を最低水準レベルとして求められる。
- (6) 選択科目に限らず授業登録は、授業途中からの受講や、受講を途中で取りやめることはできない。
- (7) 選択を希望する科目で受講人数が多い場合は、人数制限を行うことがある。

4. 採点

- (1) 受講した科目は課題(レポート含む)を提出しなければならない。
- (2) 必要に応じて授業内で課題(レポート含む)提出を複数回、行うことがある。
- (3) 科目の採点は、授業終了時に授業担当教員によって行われる。
- (4) 採点の方法は課題(レポート含む)の提出を含む総合的な評価で採点する。
※評価方法はシラバスに掲載。
- (5) 受講した科目の出席日数が3分の2以上に満たない者は、原則として採点を受けることができない。

5. 追採点

病気その他やむを得ない事由により課題(レポート含む)を提出することができなかった者に対し、事前にその旨連絡のあった場合に限り、願い出により実施することができる。ただし課題(レポート含む)内容は授業内の課題(レポート含む)と異なる場合がある。

6. 成績評価

成績は 100 点満点とし、60 点以上を合格として 5 段階で評価する。

(1) 採点は、60～100 を合格とし、それ以下を不可とする。

(2) 配点区分は下記に記す。

(3) 「実技科目」の成績評価は、定められた単位数に応じて課される課題作品・論文のすべてが対象になる。成績評価に当たっては、出席回数が授業回数の 2/3 以上になっていることや、学習状況等、総合的に判断される。一つの授業科目で未提出課題作品・論文があると、その科目の単位は認定できない。課された作品・論文はすべて指定された日時に必ず提出すること。提出期限に遅れた作品・論文の提出は原則として認められない。ただし担当教員が許可した場合はその限りではない。

(4) 作品、レポート等の提出物に関し、履修者以外の者が代理で作成、または他の者が作成した作品レポート等を自ら作成したとして提出した場合は不可とする。

(5) 本課程は前期、後期授業において学期末に学科・実技の履修状況の確認を学生・保護者に郵送する。単位不足のある学生は学校の指示に従い、不足分の単位修得を行わなければならない。

※住所が変わった場合等は必ず事務窓口申し出て、手続きをする必要がある。

採点	評価	
100～95	AA	合格
94～80	A	
79～70	B	
69～60	C	
59～0	D	不可
保留	-	仮処置

GPA(Grade Point Average)成績評価制度

創形では、5 段階の成績評価と GPA(Grade Point Average)制度を導入している。GPA とは 1 単位あたりの成績の平均値を示すもの。成績評価の 5 段階評価で GPA を算出、表示することで学修の到達度がより明確に示される。その目的は学生一人ひとりが自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的、意欲的に学修すること。5 段階評価や GPA 制度は外国の多くの大学が採用しており、国際化に対応した成績評価方法。留学や大学院進学等を希望する場合には必要な制度となる。

7. 休講

やむをえず休講となる場合は、授業内、ホームルーム、G-mail 等にて伝達する。補講は原則行わない。

8. 再履修・仮進級

採点の結果「不可」となった者は、次年度以降において原則としてその科目を再履修しなければならない。ただし在籍学年の履修を優先とするため、履修科目の変更、または再履修年度の変更についての決定は学校の指示に従うこととする。修得単位数が1年次、2年次それぞれで15単位以下、または1～2年次を通じて合計32単位以下は留年となる。16単位以上で所定の32単位に足りず、進級判定審査において判定された場合は「仮進級」という扱いになる。

- (1) 採点の結果、点数が59点以下の場合は「不可」となり、原則として次年度以降において再履修となる。授業担当教員による採点が「保留」と評価された場合は、追課題(レポート含む)が課せられる。追課題の採点は専任教員の判断に委ねられ、成績会議によって判定される。
- (2) 提出日より遅れての提出や、課せられた追課題の提出等が授業担当教員、あるいは専任教員に認められた場合には総合的な判断で採点し、合格と認定された場合のみ単位習得となる。

9. 専攻を越えた授業

専攻を跨いで受講することが可能。ただし専任教員の許可が必要。

- (1) 授業開始の2週間前までに「受講届」を直接専任教員に提出。面談し、了承を得てから受講すること。
- (2) 授業によっては、そこで使用する道具、機材やアプリケーション等の関係で受講できないことがある。
- (3) 原則、自身の専攻を疎かにしない範囲での受講となる。
- (4) 「受講届」は学校ホームページよりダウンロードできる。
- (5) 専攻を跨いで受講した授業における単位は、その授業の修得単位とする。

10. 卒業制作

3年次後期に卒業制作を提出し、その単位(16単位)を修得しないと卒業できない。卒業・修了制作は定められた日時までに必要な書類、作品を提出すること。規定日時以降の提出は無効となる。

※不慮の事故、交通機関の遅延等により定められた日時に持参して提出できない場合は、必ず期限以内に学校に電話でその旨を連絡する必要がある。

※交通機関の遅延等で提出が遅れる場合は、駅長又は交通機関の発行する遅延証明書を持参しなければならない。

11. 卒業・修了資格判定および卒業・修了判定

- (1) 卒業・修了年次の11月に卒業・修了資格判定会議にて「卒業・修了資格判定」を行う。また翌年の2月に卒業・修了判定会議にて「卒業・修了判定」を行う。
- (2) 卒業・修了資格判定会議にて成績、出席等、総合的に審査し、「合格」と認定された者は、卒業・修了制作に着手できる。また「判断保留」と判定された学生についても、同様に卒業・修了制作に着手できる。審査の結果「卒業・修了不可」と判定された者は、卒業・修了制作に着手することはできない。
- (3) 卒業・修了判定会議にて単位修得状況、成績、出席、卒業・修了制作規程違反の有無等、総合的に審査され、「合格」と認定された者は、卒業、あるいは修了が認められる。「卒業・修了不可」と判定された者は、留年、退学、もしくは除籍となる。また「卒業・修了保留」と判定された者は、要件付きで3月末日、9月末日、ないしは翌年3月末日の卒業延期となる。その場合、期日までに要件を満たし、かつ卒業・修了判定で「合格」と認定される必要がある。期日までに要件が満たされない場合、1年間までは卒業延期となる。ただし、1年間を経過しても要件が満たされない、あるいは「卒業・修了不可」と判定された場合は退学、あるいは除籍となる。
- (4) 「卒業・修了保留」と判定された者のうち、特に情状が考慮された場合に限り、通常の卒業が許される。
- (5) 卒業・修了資格判定にて「判断保留」と判定された学生のうち卒業・修了判定会議にて「合格」と認定された者は、その時点で「判断保留」が解除される。

12. リモート(遠隔)授業

本校では対面授業の他にリモート(遠隔)授業を行う。リモート授業はスマートフォンでの受講も可能であるが、可能であればパソコンやタブレットでの受講を推奨する。十分な環境が整っていない学生のために学内に受講教室が用意されている。またネット環境が不安定で映像や音声がかかる等の恐れがある場合も学内の受講教室での受講を推奨する。

リモート授業は以下の2タイプの授業形態である。

- (1) 「リアルタイム授業」はZoomを使用してリアルタイムに行う授業である。

- (2)「オンデマンド授業」は創形特設ページ(限定公開)にアクセスし、録画された動画を視聴し、受講する授業である。動画視聴は創形生のみのもので非公開となる。パスワードは学外に漏れないように取り扱いには充分注意すること。

※授業の形態や授業の進め方に関しては授業担当教員から説明される。

リアルタイム授業の進め方

- (1)リアルタイム授業はあらかじめ Zoom をインストールして授業を行う。スマートフォンでも受講可能。
- (2)Zoom の表示名は必ず学籍簿登録の氏名とすること。学生登録名になっていない場合、欠席扱い、あるいは退出させることがある。
- (3)Zoom アカウントの ID とパスワードは事前に各授業ごとにメールで通達する。
- (4)配布する授業資料がある場合は Zoom アカウントの ID 等と共に連絡し、本校ホームページ、あるいは Google Classroom へ PDF でアップするか、登校時に配布する。受講生は事前に目を通し、場合によってはプリントアウトしておくこと。資料を閲覧できるのは創形生のみのもので非公開となる。取り扱いには十分に注意すること。
- (5)授業は原則、通常の授業時間で行う。授業開始 5 分前までに準備し、接続すること。
- (6)できるだけ静かな場所で背景に映り込むものに不都合がないか確認し、受講すること。ハッキングや情報漏洩のリスク軽減のため、フリーWi-fi の使用は推奨されない。
- (7)ウェブカメラ付きのパソコンやスマートフォン等を使用し、カメラは必ず ON にし、マイクはミュートにして受講すること。質問など発言する際にマイクのミュートを解除して使用すること。発言する際には必ず教員の許可を得ること。
- (8)教員への質問はチャット機能を使用するか、教員が許可した場合にマイクのミュートを解除して行うこと。教員の音声途切れた場合等も同様にチャット機能を使用するか、マイクのミュートを解除して質問、または再度話し直してもらいようお願いすること。
- (9)授業時間内での Zoom での対応は教員の指示に従うこと。一時的に Zoom から退出する場合は、担当教員に必ず許可を得ること。
- (10)自宅のネット、パソコン環境が不十分な学生は学内の受講教室にて受講すること。またリアルタイム授業終了後に次の授業までの登校時間が確保できない学生も同様に学内の受講教室にて受講すること。

リアルタイム授業の出欠・採点

- (1)担当教員が Zoom で確認して出欠を取る。あるいは Zoom の録画機能を使用する。遅刻した場合はチャットあるいは音声にて必ず担当教員へ申告すること。また途中での退席は早退

扱いとなるので注意すること。一時的に Zoom から退出する場合は、担当教員に必ず許可を得ること。

- (2) 作品、レポートの提出は授業担当教員の指示に従うこと。採点は対面授業と同様の方法で行われる。
- (3) データでの提出は担当教員の指示に従い、Google ドライブ、DropBox 等で提出することもある。
- (4) 作品データを添付する場合は 10MB 以内にとすること。10MB 以上のデータサイズの場合はオンラインストレージサービス等を使用すること。以下参照。
オンラインストレージサービス <ギガファイル便> <https://gigafile.nu/>
※1 ファイル=200GB まで可能。使用方法が分からない場合はメールにて学校へ問い合わせること。

オンデマンド授業の進め方

- (1) オンデマンド授業は、Gmail アカウントを使用する。
- (2) 創形特設ページ(限定公開)にアクセスし、録画された動画を視聴して行う。スマートフォンでの受講も可能。
- (3) 創形特設ページのアカウントの URL や ID、パスワード等を事前に通達する。
- (4) 授業動画は、各自でアクセスして視聴すること。1 回の授業に対してレポートか作品制作などの提出物がある。提出日に注意し、遅滞なく提出すること。それらの提出が無い場合は受講したことに ならないので注意すること。
- (5) 授業内で作品に対する講評やコメントに関してもオンラインで行うことがある。
- (6) 配布する授業資料がある場合は、創形特設ページのアカウント ID 等と共に連絡し、本校ホームページ、あるいは Google Classroom へ PDF でアップするか、登校時に配布する。受講生は事前に目を通し、場合によってはプリントアウトしておくこと。動画視聴、および資料を閲覧できるのは創形生のみとなる。パスワードは学外に漏れないようにまた資料の取り扱いには充分注意すること。
- (7) 自宅のネット、パソコン環境が不十分な学生は学内の受講教室にて受講すること。

オンデマンド授業の出欠・採点

- (1) 授業の形態や授業の進め方に関しては授業担当教員から説明される。
- (2) 授業の出欠は作品、レポート等の提出物が期限内に提出されたことの有無で担当教員が取る。期限内に必ず提出すること。

- (3) 作品、レポートの提出は授業担当教員の指示に従うこと。採点は対面授業と同様の方法で行われる。
- (4) データでの提出は Google ドライブ、DropBox 等で提出することもある。
- (5) 作品データをメールに添付する場合は 10MB 以内にすること。10MB 以上のデータサイズの場合はオンラインストレージサービス等を使用すること。(上記参照)

リモート授業における禁止事項

- (1) ビデオ通話、音声通話の、録画・録音・撮影は禁止。また転記することも禁止。
- (2) 許可なく誰かを同席させるのは禁止。もしも同席を希望する場合は、事前に教員の許可が必要。

13. 提出作品・参考作品

提出のあった課題作品、およびレポートについては原則として採点終了後、速やかに返却を行う。返却された作品は速かに持ち帰ること。返却された作品が放置されていた場合に処分することがある。場合により参考作品として一定期間預かり、授業の資料として授業時やガイダンス等で使用することがある。また、学校案内用の印刷物や広報(ホームページ、SNS など)および学校外等、授業以外での目的で作品や授業風景画像を使用することがある。

14. 授業単位サポート制度

「授業単位サポート制度」とは単位修得をサポートするための制度。いずれも専攻担当専任教員と面談を通じて認定される。

代替授業・学外活動を通じて認定

- (1) 所属専攻、該当学年の授業以外の授業を受講することによる単位修得(単位数:受講授業単位に準ずる)
※所属専攻の授業と重複した場合は受け入れ授業の担当教員の許諾により、途中からの受講、中抜けも認め、その場合のみ出席扱いとする。
- (2) インターンシップに参加、レポートを提出することによる単位修得(単位数:1 単位)
※2 年次の「インターンシップ」の授業と同様のインターンシップを、授業以外の期日に行った場合に認める。「インターンシップ」の授業同様に書類、レポート提出が必須。採点方法は受入会社の評価に従い採点。
- (3) ボランティア活動等による単位修得(単位数:活動期間に準ずる)※単位認定は原則、実質 1 日 8 時間のボランティア活動を 5 日行う事で 1 単位とする。事前に専攻担当専任教員によ

る面談を行い、ボランティア活動を行った後に「ボランティア活動報告書」の提出をもって認定。採点評価。認定される。

ボランティア活動に、豊島区の国際アート・カルチャー活動を含む。

(4)学外コンペに出品することによる単位修得(単位数:1単位)

※専攻担当専任教員にコンペの内容を事前に報告し、出品前に専攻担当専任教員の講評を受けて出品すること。ただし授業の一環として行われたコンペの出品は認められない。

例:「日本タイポグラフィ年鑑学生部門」「アワガミ国際ミニプリント展」「回遊美術館」「GU タペストリーコンペ」etc

特別支援授業を通じて認定

特別支援授業を受講することによる単位修得(単位数:各1単位)

受講料:1講座15,000円/採点方法:提出作品、試験、レポート等によって採点。

※特別支援授業とは、単位取得を支援するために行われる授業。春期休暇、夏期休暇に「学科科目」と「実技科目」が開設。授業日の前の週までに事務局窓口で受講することを告げ、受講料を支払うことにより受講が認められる。

ファインアート科
シラバス

1年次ファインアート科 単位一覧

	授業科目	履修形式	単位数	
学科	文章技法論	必修	1	
	視覚文明史	必修	1	
	日本美術史A	必修	1	
	日本美術史B	必修	1	
	英会話	選択	2	
	日本語（※留学生対象）		1	
	小計		4	
実技	素描 I	観察力(工藤、佐藤)	必修	3
	造形基礎演習	技法力(鈴木)	必修	8
		構成力(田中)		
		表現力(今野、須田)		
		企画力(松蔭、山口)		
	技法演習 1	フレスコ画(杉崎)	必修	2
	表現基礎演習 1A	前期F A基礎	必修	2.5
	表現基礎演習 1B	Mac 講座(濱迫)	必修	3.5
		日本画(小林)		
	表現基礎演習 1C	漫画と絵画(松尾)	必修	6.5
		シルクスクリーン基礎(東樋口)		
		絵画表現(安藤)		
		銅版画基礎(長島)		
	視覚言語 1A	テンペラ画(安藤)	必修	4.5
専攻別テーマ制作				
視覚言語 1B		選択		
小計			30	
合計			34	

【前期時間割】

FA科			
1限 9:20-10:50	2限 11:00-12:30	3限 13:30-15:00	4限 15:00-16:30
表現力 (今野)	表現力	表現力	表現力 (今野)
観察力	観察力	観察力	(工藤)
文章(日本語)	技法力 (鈴木)	技法力 (鈴木)	技法力 (鈴木)
英会話	英会話	構成力	構成力 (田中)
日本美術史A	Mac (瀧白)	企画力	企画力 (松陰)
日本画	日本画(小林)	自由研究	自由研究

VD科			
1限 9:20-10:50	2限 11:00-12:30	3限 13:30-15:00	4限 15:00-16:30
Mac (高林)	Mac (高林)	表現力	表現力 (片山)
観察力	観察力	観察力	(関根)
文章(日本語)	技法力 (鈴木)	技法力 (鈴木)	技法力 (鈴木)
英語	英語	構成力	構成力 (田中)
色彩論	社会	企画力	企画力 (岡山)
写真	写真(藤本)	自由研究	自由研究

【後期時間割】

FA科			
1限 9:20-10:50	2限 11:00-12:30	3限 13:30-15:00	4限 15:00-16:30
漫画と絵画	(松尾)	実技カリキュラム	実技カリキュラム
文章(日本語)			
英会話	英会話		
日本美術史A	Mac (瀧白)		

VD科			
1限 9:20-10:50	2限 11:00-12:30	3限 13:30-15:00	4限 15:00-16:30
アニメーション	(飯田萌)	実技カリキュラム	実技カリキュラム
文章(日本語)			
英語	英語	エディトリアル	(奥定)
色彩論			

学科科目：前期学科授業名：「文章技法論(共通)」 担当教員：太田克彦

授業期間：2024/04/10(水)-2024/09/25(水)

※留学生は「日本語」と選択

授業時間：9：20-10：50

修得単位：1 単位

学習目標：文章を書くことに対する苦手意識をまず払拭し、言葉を連ねる作業の楽しさを実感する。このトレーニングにより、言葉が美術制作をするときに、色や形や空間を構成するうえでより効果を上げていく役割を果たせるようにする。

授業内容：伝えるための道具として言葉を使う前に、しりとりや回文、川柳といったナンセンスやリズムによる言葉遊びから始める。与えられたキーワードで絵を描いたあとから作文するという方法により、想像力を広げていく。

学科科目：前期学科授業名：「日本美術史A (FA 科)」 担当教員：北 進一

授業期間：2024/04/12(金)-2024/09/27(金)

授業時間：9：20-10：50

修得単位：1 単位

学習目標：古代から中世までの日本美術は、東アジア文化圏の産物の一端として、そのイメージの源泉のほとんどを朝鮮半島や中国大陸に求めることができる。本講は、仏像・仏画・絵巻物・水墨画などを取り上げ、朝鮮や中国の作例と比較して、それらの造形（イメージ）の本質を具体的に追求してゆく。日本美術史を従来の様式論でおさえるのではなく、イメージの解釈という新たな視点から日本文化史の中に位置づけて探求してみたい。

授業内容：最初に法隆寺金堂釈迦三尊像や玉虫厨子、広隆寺弥勒菩薩半跏思惟像など飛鳥時代の仏教美術から始まり、奈良時代の興福寺阿修羅像や東大寺法華堂不空罽索観音像、平安時代の神護寺薬師如来像と東寺講堂諸仏、平等院鳳凰堂阿弥陀如来像、平安仏画、鎌倉時代の運慶仏などの仏教美術を通観する。その後、平安末期の信貴山縁起絵巻や鳥獣戯画、室町時代の雪舟・雪村などの水墨画を取り上げ、古代・中世の日本美術の本質を探ってゆく。

学科科目：後期学科授業名：「視覚文明史(共通)」 担当教員：太田克彦

授業期間：2024/10/02(水)-2025/01/29(月)

授業時間：9：20-10：50

修得単位：1 単位

学習目標：制作上の技術は必須である。しかしそれはあくまでも必要条件。名作と呼ばれている作品には、すべて優れた発想と想像力がある。したがって作品内容をより高めるための発想力を身につける方法を学ぶ。

授業内容：古代から現代、そして未来までのパースペクティブを、視覚文化という次元から検討する。その分野は文学や演劇、ダンス、ファッションから音楽にまで広げ、それらが美術とどのように関わっているのかを学習する。

学科科目：後期学科授業名：「日本美術史B (FA科)」 担当教員：北 進一

授業期間：2024/10/04(金)-2025/01/31(金)

授業時間：11：00-12：30

修得単位：1 単位

学習目標：近世以降の日本美術は、中世までの宗教色の濃い美術から脱し、世俗的で鑑賞性の高い美術へ変貌してゆく。本講は、桃山時代の障壁画や江戸絵画などを取り上げ、独自の色彩と形態を追求してゆく有様を見てゆく。日本美術史を従来の様式論でおさえるのではなく、イメージの解釈という新たな視点から日本文化史の中に位置づけて探求してみたい。

授業内容：最初に日本絵画の黄金時代とされる桃山時代の絵画、特に狩野永徳と長谷川等伯の絵画などから始まり、俵屋宗達や尾形光琳の琳派絵画など江戸時代の絵画へ展開してゆく過程を探究する。その後、池大雅や与謝蕪村などの文人画、円山応挙などの写実派、伊藤若冲などの奇想派や浮世絵師の絵画を取り上げ、江戸絵画の本質を探ってゆく。

学科科目：選択学科(前期・後期)授業名：「英会話(共通)」

担当教員：ティム・ウェイレン

授業期間：2024/04/11(金)–2025/01/23(金)

授業時間：9：20–12：30

修得単位：2 単位

学習目標：芸術やデザイン分野で活躍しようと思っている人たちに役立つ表現および単語に焦点を合わせて基本英会話レッスン。

授業内容：海外の友達と会話するときや、芸術・デザインの世界の現場で英語を使うときでも、スムーズにコミュニケーションができるように、レッスンはフリートーク、リスニング演習、簡単なテキスト（プリント）の三つの部分に分けられています。リラックスした雰囲気の中で自分の英語力を伸ばしましょう。

学科科目：前期学科授業名：「日本語(留学生対象)」 担当教員：蔣 燕萍

授業期間：2024/10/12(水)– 2024/09/25(水)

※留学生は「文章技法論」と選択

授業時間：9：20–10：50

修得単位：1 単位

学習目標：①日本語能力試験 N1 対策：N1 の試験に合格できる力をつける。
②語彙力の向上。

授業内容：1. 1 分間スピーチ（30分）

2. 美術関係記事についてのディスカッション（50分）

3. 映像教材を用いた美術用語導入（90分）

4. 前回導入した美術用語のチェック小テスト（10分）

5. 課外宿題

・言語知識、読解、聴解の実戦練習。

・模擬試験。

※留学生対象授業。

実技科目：前期実技授業名：

「5つの力(技法力、観察力、構成力、企画力、表現力)」

**担当教員：鈴木吐志哉、工藤礼二郎、安藤孝浩、佐藤良孝、松蔭浩之、
山口 藍、今野樹里恵、須田浩介**

学習目標：基礎課程として1年次に、表現の根本になる5つのエレメントに分けて指導を行う。5つのエレメントとは「技法力」「観察力」「構成力」「企画力」「表現力」を指す。将来どんな活動をする上でも基本的な「体」ができていないと多様なものは生まれてこない。1年次前期で基礎力をしっかり身に付けることで、クリエイティブの入り口に立つことができ、2年、3年の授業も「なぜこれをやるのか」を理解できるようになる。その一番大事な部分を取り組む授業が「5つの力」である。上手に描けていながら、自分の描写力に自信のない人。そういった人がこの5つの力を通過する事によって苦手意識を克服し、次世代のプロを育成する足がかりとする。もの作りの構造を理解し、時代に対応できる力をつけることを目標とする。

実技科目：前期実技授業名：「表現力(FA科)」 担当教員：今野樹里恵

授業期間：2024/04/15(月)–2024/06/03(月)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：1.5 単位

授業内容：表現力は柔らかな発想のもと、物や事、ストーリーを表現する授業です。課題によるある程度の制約や要素を取り入れることで、自分の想定のを超えた新しい表現に出会うこと。個性が重視されるイラストの世界で、自分だけの強みや表現を見つけるための授業です。

実技科目：前期実技授業名：「表現力(FA科)」 担当教員：須田浩介

授業期間：2024/06/10(月)–2024/07/08(月)

授業時間：9：20–12：30／13：30–16：30

修得単位：1.5 単位

授業内容：新規授業のため後日更新

実技科目：前期実技授業名：「観察力(FA科)」

担当教員：工藤礼二郎、安藤孝浩、佐藤良孝

授業期間：2024/04/16(火)–2024/07/09(火)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：3 単位

授業内容：観察力では単に描写力を鍛えるだけでなく、描くことを通して物事を深く見つめることのできる力を養っていきます。それはプロのクリエイターとして必要かつ重要なことです。じっくりと物と対話しながら描くことの面白さと大切さを学びます。鉛筆、木炭デッサンから始まり、人体デッサン、水彩、油画など絵画表現の基礎を身につけます。

実技科目：前期実技授業名：「技法力(共通)」 担当教員：鈴木吐志哉

授業期間：2024/04/10(水)-2024/07/10(水)

授業時間：11：00-12：30/13：30-16：30

修得単位：2単位

学習目標：この授業では様々な版画の技法を体験します。版画で遊びながら「技法の力」を実感し、自分のイメージを展開、成長させることをこの授業の最大目的とします。そして版画というフィルターを通すことで、自分の作品の別の顔に出会うことを目標とします。

授業内容：技法力は様々な版画の技法から生まれる表現を体験しながら探る授業です。まずフロッタージュから始まりモノタイプやシルクスクリーンなど、直接描くことでは得られない間接表現の魅力を学びます。さらに本校収蔵の葛飾北斎「神奈川沖浪裏」復刻版の版木をキーワードにして自由な表現による木版画、コラージュへと展開させてゆきます。

実技科目：前期実技授業名：「構成力(共通)」 担当教員：田中北斗

授業期間：2024/04/11(木)-2024/07/11(木)

授業時間：13：30-16：30

修得単位：1.5単位

学習目標：基礎力をしっかり身に付けることで、2年、3年の専門課程ができるようになります。「構成力」は、表現におけるカタチの形成・構図・レイアウトなどに関わる重要な基礎の力です。デザインの基礎的な事や考え方を学ぶことを目標とします。

授業内容：構成力は「デザイン制作」の基礎となる「構図」「レイアウト」など「[組み立てる力]」をつける授業です。同時に「分析や考察」といった作業も行い、どのような構図やレイアウトがベストなのか、制作を通して身につけていきます。一連の制作を体験しながら、自分自身の作品を客観的に評価し学んでいきます。

第1課題「分解と再構成、トリミング」 第2課題「コラージュ」 第3課題「フレイヤー分析と再構成」

実技科目：前期実技授業名：「企画力(FA科)」 担当教員：松蔭浩之

授業期間：2024/04/12(金)-2024/05/31(金)

授業時間：13：30-16：30

修得単位：0.75 単位

授業内容：新規授業のため後日更新

実技科目：前期実技授業名：「企画力(FA科)」 担当教員：山口 藍

授業期間：2024/06/07(金)-2024/07/12(金)

授業時間：13：30-16：30

修得単位：0.75 単位

授業内容：新規授業のため後日更新

実技科目：前期実技授業名：「MAC講座A(FA科)」 担当教員：濱迫 萌

授業期間：2024/04/12(金)-2024/09/27(金)

授業時間：11:00-12:30

修得単位：1単位

学習目標：まずはPCに慣れ、何が出来るのかを知ることからはじめます。印刷物（紙媒体）をベースとした各メディアのデータ作成に必要な基礎知識やスキルなどを身につけることを目指します。

授業内容：前期では基礎的なPCの使い方、Illustrator およびPhotoshopの基礎的知識、技術を身につけるための授業を行います。

実技科目：前期実技授業名：「日本画(FA科)」 担当教員：小林大悟

授業期間：2024/04/13(土)-2024/07/13(土)

授業時間：9:20-12:30

修得単位：1.5単位

学習目標：敷居が高い日本画の画材へのハードルを下げながら、画材の体験と制作を行います。親しみやすいテーマを取り入れる事で楽しみながら画材に触れ、日本画への興味と今後の制作への応用に繋がる事を目指します。

授業内容：触れる機会の少ない「日本画」材料の基礎を学んでいきます。

実技科目：前期実技授業名：「前期ファインアート基礎」

担当教員：工藤礼二郎、鈴木吐志哉

授業期間：2024/09/02(月)–2024/09/30(月)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：2.5 単位

学習目標：単に「見たまま」「見えたとおりに描く」といった狭義の絵画感から、版と絵画の双方の要素に触れながら絵画として自立、成立する色彩や形態とはどのようなものなのかを実践を通して探る。

授業内容：①版画としてのモノタイプ制作と紙に直接的にアプローチするドローイング制作の双方を行い、画面が成立する要素が版画と絵画でどのような差異と共通点があるかを検証する。

②刷りとった痕跡の残るモノタイプの版へリタッチすることで作品化を試みる。

③キャンバスに①②の造形要素をさらに展開させ、タブロー制作を行う

実技科目：後期実技授業名：「漫画と絵画(FA科)」 担当教員：松尾 龍

授業期間：2024/09/17(火)– 2024/10/29(火)

授業時間：9：20–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：日本の文化で独自の発展を続けている漫画文化、それを”アート”の視点で漫画との関係性や表現方法を考え制作します。

授業内容：漫画をテーマにアート作品（平面・立体・インスタレーション・パフォーマンスなど）として自由に作品を制作し、最終日には発表、講評会を行います。

実技科目：後期実技授業名：「MAC講座B(FA科)」 担当教員：濱迫 萌

授業期間：2024/10/04(金)– 2025/01/31(金)

授業時間：11：00–12：30

修得単位：1 単位

学習目標：新規授業のため後日更新

授業内容：新規授業のため後日更新

実技科目：後期実技選択授業名：「シルクスクリーン基礎(共通)」

担当教員：東樋口徹

授業期間：2024/10/01(火)– 2024/10/18(金)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：1.5 単位

学習目標：シルクスクリーンは別名孔版と呼ばれ、型染めの型紙と紗が組み合わされて改良されたものです。枠に張った紗の目を unnecessaryな部分は塞ぎ、画の孔（穴）の部分からスキージによって下の紙にインクを落として刷る技法です。授業においてはいくつかの製版方法がありますが、現在一般的に行われる直接感光法を学びます。基礎を身に付け各自のイメージに近づける作品作りを目指します。

授業内容：基本的な水性インクで紙に刷る4版以上を使った作品（A4／21cm×29.7cm）を一点（紙8枚程度）制作。

実技科目：後期実技選択授業名：「フレスコ画(FA科)」

担当教員：杉崎匡史

授業期間：2024/10/19(土)– 2024/11/05(火)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：2単位

学習目標：油彩画以前の一つの古典技法であるフレスコ画技法は、消石灰と砂を混ぜたもので漆喰壁を作り、その壁が乾き切らぬうちに顔料を水のみで溶いて描ききるもので、空気中の二酸化炭素と反応した石灰成分が顔料を閉じこめ、半永久的に壁画は色褪せることがない。壁や石灰といった素材の強さにおいては代え難いものがあり、光沢の無い自然な質感や、制約の中で必要とされる高い集中力、五感だけでなく身体を目一杯使って体感することなど、その中に潜む一つの可能性を探求する。

授業内容：古典技法としてのフレスコ画技法を模写を通して試みる。物質が変化していく、その体験を目の当たりにしながら、実直に絵と向き合う時間に身をゆだね、その中で自身の展開に繋がられるのか考えてみる。

実技科目：後期実技授業名：「絵画表現(FA科)」担当教員：安藤孝浩

授業期間：2024/11/06(水)– 2024/12/25(水)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：2単位

学習目標：新規授業のため後日更新

授業内容：新規授業のため後日更新

実技科目：後期実技選択授業名：「銅版画基礎(FA科)」 担当教員：長島 充

授業期間：2024/11/26(火)– 2024/12/13(金)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：2 単位

学習目標：銅版画の基本的なエッチング技法での制作により版画に親しんでもらう。「自然物」をモチーフに線描と点描によるモノクロームの描写力・表現力を養う。

授業内容：腐食銅版画の中で最も基本的な技法であるライン・エッチング技法によりモノクロームの銅版画 1 点(18×24 cm)を制作します。ドローイングにも感覚に近い線描と点描を用いて自然物を観察し銅板という物質に表現していきます。

実技科目：後期実技選択授業名：「テンペラ画(FA科)」 担当教員：安藤孝浩

授業期間：2025/01/08(水)– 2025/01/25(土)

授業時間：9：20–12：30/13：30–16：30

修得単位：2 単位

学習目標：中世美術からルネッサンス期を経て現代にまで受け継がれてきた卵テンペラ技法を学ぶ。卵で作る絵具の造形の自由さ、楽しさを学ぶ。ここでは技法と描写の関係を理解し、絵画表現の幅広い可能性を追求する。絵画模写をしながらテンペラ技術の基礎と応用を修得する。

授業内容：木材板の基材に地塗りをしてパネルを作る。

卵テンペラ（水性画材）をつくり、描画材として古典技法を応用して①模写や

② 自由な絵画制作をする。

①模写：学校側がセレクトしたテンペラ画の中から選ぶ。

②描きたい好きな顔あるいは動植物の絵を元に描く

実技科目：後期実技授業名：「専攻別ワークショップ(絵画専攻)」

担当教員：工藤礼二郎

授業期間：2025/01/28(火)－2025/02/22(土)

授業時間：9：20-12：30/13：30-16：30

修得単位：2.5 単位

学習目標：油彩画の古典技法を通じて油絵材料の性質や支持体の重要性と絵画組成を理解する。

授業内容：絵画を学ぶ上で重要な西洋絵画。その中心をなす油彩画の支持体の変遷を学ぶと同時に、油彩画発祥の初期フランドル派の技法に基づくグリザイユ（モノトーンの絵画）を制作する。

実技科目：後期実技授業名：「専攻別テーマ制作(版画専攻)」

担当教員：鈴木吐志哉

授業期間：2025/01/28(火)－2025/02/22(土)

授業時間：9：20-12：30/13：30-16：30

修得単位：2.5 単位

学習目標：水性木版画の基本技術の習得

授業内容：水性木版画 1 版単色（墨摺り）モノクロームの大型版木に取り組み制作することで、木版画水性摺り技法の基本と魅力を体験します。版木サイズ 900×600mm

学校法人高澤学園

創形美術学校

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-31-2

TEL 03-3986-1981 FAX 03-3986-1982

URL <https://www.sokei.ac.jp/>

E-mail: sokei@sokei.ac.jp